

第588号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664

# たかぎ

発行日	2018年3月16日
発行責任者	喬木村公民館 長 徹
	市 瀬 公民館 編集部長 志
編集責任者	公民館編集部長 久 志
	仲 田 久 志
印刷	龍共印刷株式会社

第35回  
ふるなびづくろいフォーラム  
どうつてくくれるかじやない、どうするかだ！  
どうつてくくれるかじやない、どうするかだ！  
どうつてくくれるかじやない、どうするかだ！  
未来を抱く子どもに誇れるふるなびを目指して

二月十一日、第三十五回ふるなびづくろいフォーラムが開かれた。今回は「どうつてくくれるかじやない、どうするかだ！未来を抱く子どもに誇れるふるなびを目指して」と題し、村の今後をどう創り出すのか、という方向性にもっていくのか考え、行動するきっかけにしようと考えられた。まず、人口減少の現状を役場の企画財政課長から話を聞き、講演会では、「地域づくりは、地域の自立、個の自律」と題し、ひさかた風土舎の長谷部三弘さんから、上久堅地域のさまざまな問題を打開して行った話を聞いた。その後のシンポジウムでは、村で活動している方々の思いを語ってもらった。

**司会** これから、シンポジウム「地域で活動している方の思いを語っていたいただき」として、地域での活動を実践されている三名の方と、先ほど講演をいただいた長谷部さんにもパネリストとしてご参加いただき、シンポジウムを行います。それでは、最初に、たかぎ未来塾を代表して森山康晴さんをお願いします。

**森山さん** たかぎ未来塾では、元村長の賜さんの講演会を七月に行いました。きっかけは私自身が普段から賜さんとお話させていただく中で、ハッとさせられるようなことがいくつもあつて、こういう話をもっといろんな方に聞いてもらう機会があつてもいいんじゃないかと思ひ、賜さんをお願いしてみました。最初はこんな年

寄りの言うことをなんかという風に言われておりましたが、そこを無理してお願ひして講演会が実現しました。さすが賜さんのお話

聞けるということもありまして、八十代から二十代の方まで幅広い年代の方々が来てくれました。賜さんには喬木村の今までの歴史等について熱く語っていただきました。私たちの先輩

なつてしまつてはいませんが仲間入りさせていただけたい

ご縁で、スピカさんの小麦を使ったパンでサンドイッチにしたり、本日お声掛け頂いた知久さんのところのくりん豚を使ってサンドイッチを作ったりと、私自身も楽しみながらサンドイッチを作っております。せっかくこんな面白くて美味しい食材がいろいろあるなら、橋木の方はもちろん喬木以外の方にも知ってもらいた

とをしまして、教えるというよりは「地元こんな美味い面白い食材あります」という物を持って行って

を紹介しながら、「こんな形でサンドイッチにすると面白いですよ」という話を、受講された皆さんと一緒に、私自身も聞いていた。髪を染め、ピアスをしたりズボンを下げていたりする風貌によるもの大きい。しかし、平野歩夢という一見チャラチャラしているように見える若者の言葉にふれ、一気に彼のファンになってしまった。東京五輪で新たな競技として採用されたスケートボードで金メダルをめざすという。二年後、再びS・ホワイトと金メダルを争うことになるかもしれない。注目して応援したい。(館長)

の方達もこんな経緯があつたのか、「初めて聞いた」と言つておられ、非常に良い話を聞く場を与えていただきました。もう一つは、九月に選挙がなつたというところで、今日も議員の皆様が大勢お見えですが、議員の皆様方とのシンポジウムを企画させていただきます。選挙がなつたからいけないという訳ではないのですが、選挙戦がなつたというところは、議員の皆様の方の選挙公約、マニフェスト等を直接我々住民が聞く機会がなかつたということなので、十二名の議員の皆様が選挙

公約や思いを語っていただき、そのあと参加者が議員の皆様方に質問、討論する企画をさせていただきます。選挙公約、マニフェストを聞く場合は、四年後、議員の皆様がどういふ公約を掲げてどういふことをやっていたのか、どだけできたのかということ、我々も判断のひとつにできますし、議員の皆様方も十二名のうち半分が新人の方でしたので、顔と名前がわかり、そして思いを述べていただけるいい機会ができるのかなと思つたからです。本間に忙しい中、十二名の皆様方にお一人お一人に短い時間ではあつたんですが、選挙公約や思いを語っていただくことができました。発足間もない未来塾ですが、今までの二つの活動をしてきております。今日です。ね長谷部先生のお話の中で、物づくりをコアとした成功している例をたくさん聞かせていただきましたので、今後の活動の参考にさせていただきます。

させていただきます。ありがとうございました。司会 ありがとうございました。森山さんは長谷部先

生のお話にもありました、まずは地域を知ること。この一環として活動されているかなと思ひました。

とをしまして、教えるというよりは「地元こんな美味い面白い食材あります」という物を持って行って

を紹介しながら、「こんな形でサンドイッチにすると面白いですよ」という話を、受講された皆さんと一緒に、私自身も聞いていた。髪を染め、ピアスをしたりズボンを下げていたりする風貌によるもの大きい。しかし、平野歩夢という一見チャラチャラしているように見える若者の言葉にふれ、一気に彼のファンになってしまった。東京五輪で新たな競技として採用されたスケートボードで金メダルをめざすという。二年後、再びS・ホワイトと金メダルを争うことになるかもしれない。注目して応援したい。(館長)

とをしまして、教えるというよりは「地元こんな美味い面白い食材あります」という物を持って行って

を紹介しながら、「こんな形でサンドイッチにすると面白いですよ」という話を、受講された皆さんと一緒に、私自身も聞いていた。髪を染め、ピアスをしたりズボンを下げていたりする風貌によるもの大きい。しかし、平野歩夢という一見チャラチャラしているように見える若者の言葉にふれ、一気に彼のファンになってしまった。東京五輪で新たな競技として採用されたスケートボードで金メダルをめざすという。二年後、再びS・ホワイトと金メダルを争うことになるかもしれない。注目して応援したい。(館長)



第1回たかぎ未来塾 賜さんによる喬木村の生い立ちの講義

**司会** それでは小林美和さん、よろしくをお願いします。小林さん サンデイサンドというサンドイッチ屋さんをやっている小林美和と申します。喬木のイチゴ狩りの受付をやっている交流センターでお昼にサンドイッチを売っております。そのことを続けてきた延長でお声をかけていただいて、イベント会場で売ったりする活動もさせていたかいてい



サンデイサンド 小林美和さん

もおいしいものが多いとはいえないか、素敵なキキラした農家さんに出合わせていただけて面白いなと思つて、食べることでうれしい気持ちやワクワクする

の気持ちももたらしたので、自分でも何か伝える側になれないかなと思ひ始めたのがきっかけです。縁あつて喬木に来た訳ですが、そこで普段出させていたいた農家さんの食材、今だったら旬なイチゴを使ったサンドイッチ、秋には伝統野菜に認定された、志げ子なすを使ったサンドイッチ、喬木でレモンやパッションフルーツを育ててらっしゃる方がいらして、そのフルーツを使ったサンドイッチ、喬木村産の小麦があるというところで、名前だけに

なつてしまつてはいませんが仲間入りさせていただけたいご縁で、スピカさんの小麦を使ったパンでサンドイッチにしたり、本日お声掛け頂いた知久さんのところのくりん豚を使ってサンドイッチを作ったりと、私自身も楽しみながらサンドイッチを作っております。せっかくこんな面白くて美味しい食材がいろいろあるなら、橋木の方はもちろん喬木以外の方にも知ってもらいた

とをしまして、教えるというよりは「地元こんな美味い面白い食材あります」という物を持って行って

を紹介しながら、「こんな形でサンドイッチにすると面白いですよ」という話を、受講された皆さんと一緒に、私自身も聞いていた。髪を染め、ピアスをしたりズボンを下げていたりする風貌によるもの大きい。しかし、平野歩夢という一見チャラチャラしているように見える若者の言葉にふれ、一気に彼のファンになってしまった。東京五輪で新たな競技として採用されたスケートボードで金メダルをめざすという。二年後、再びS・ホワイトと金メダルを争うことになるかもしれない。注目して応援したい。(館長)

## あの時

メダルラッシュで盛り上がった平昌五輪が終わつた。日本選手が獲得したメダルの数は冬季五輪の過去最多を更新し、金メダルは四個獲得した。メダリストへのインタビューを聞いていて思うことがある。それは単に競技者として優れているだけではないということだ。それぞれ個性的で人間としての魅力に溢れている。

スノーボードハーフパイプで銀メダルを獲得した十九歳の平野歩夢選手。十五歳で出場したソチ五輪に続いて二大会連続の銀メダル。インタビューでは「今まで最高の勝負ができた。悔しさはあるが満足している」と答えた。また、帰国時のインタビューでは、絶対王者のS・ホワイトを「見習わなければいけない存在」と敬意の念を示し、「どんだんチャレンジして北京で再び戦いたい」と言っている。S・ホワイトも金メダルが決まった後のインタビューで「歩夢がいたから難しい技に挑戦できた」と、ライバルの存在を称えていた。互いにライバルをリスベクトするその姿勢に感動した。私はスノーボードの選手に偏見もつていた。髪を染め、ピアスをしたりズボンを下げていたりする風貌によるもの大きい。しかし、平野歩夢という一見チャラチャラしているように見える若者の言葉にふれ、一気に彼のファンになってしまった。東京五輪で新たな競技として採用されたスケートボードで金メダルをめざすという。二年後、再びS・ホワイトと金メダルを争うことになるかもしれない。注目して応援したい。(館長)

おりますが、週に何回かというサンドイッチ屋のオーブンなので、知らないという方がたくさんいらっしゃると思いますが、もし機会がありましたら交流センターだったり、いろいろなところでサンドイッチを売っておりまして、食べてもらえたら嬉しいなと思います。そして面白い食材の情報があれば教えていただきたいなと思っております。

【司会】ありがとうございます。一番最初の森山さんは地域を知るとい活動。二番目の小林さんはまさに「モノをで語れ」の物を使っただけというお話でした。

【長谷部さん】コツはないです。困ったと思ったらしめたと見え、困った時に何かが見えてくる、何かしようと思った時に分からんから誰かに聞くとか。そこからは始まるので、困ったと思ったらしめたと見え、困った時に何かが見えてくる、何かしようと思った時に分からんから

【司会】ありがとうございます。いろいろな人に聞くというところで、森山さんは賜さんの話を聞いて何か見えたものがあつたと先程お話ししましたけれども。

【森山さん】まずですね賜さんの人柄がいいんです。だいがお年を召しているのですが、とてもパワフルな方で今までの実績もあるんで

**たかき交流センター**  
(Aコープのおとなり)

**手づくり サンドイッチ**  
Sunday☆sand

たかき交流センター 日-月: 第1, 3, 5日 12:00-13:30	豊丘 とほデブス 第2, 4日 12:00-13:30	カレーの 大塚 月に1回(不定期) 12:00-14:00
--	--------------------------------------	--

080-3574-7008 (コパヤシ) ショートメールで

是非交流センターに足を運んでみて下さい!

【司会】三番目の東原さんも「モノ」ですね。よろしくお願ひします。

【東原さん】飯田OIDE長姫高校の東原知歩です。私は商業科に入って商業の勉強をしているんですけど、その商業科の勉強の中で地域人教育があります。地域人

教育というのは私の通っている飯田OIDE長姫高校と飯田市と松本大学が協定を結んで行っている事業で、一年生から三年生までの三年間を通して地域のために色々な活動を行っています。一年生の時には地域を知る、二年生の時には地域で活動をして、三年生は一年、二年生のことを元に地域の課題を解決するための活動を行いました。その中で私は地域の特産物を使った商品開発をしようということによって一年間活動してきました。

思うんですが、「それ以外の物をもっといろいろな人に知ってもらいたい」との思いで、私達は五平餅と焼肉が飯田市では有名なもので、それを融合させた商品が何かできればと思つて五平餅の形をした肉巻きおにぎりにするという物を作らせてもらいました。巻いてあるお肉を私が喬木村ということで行った豚肉を使わせていただいで、上にかかっているタレは喬木村の小池農産加工場で作られた「心打たれ」というタレを使つて作らせていただきました。一個一個の五平餅に一枚一枚巻いて作ったんですが、ボリュームがあつて美味しいと評判

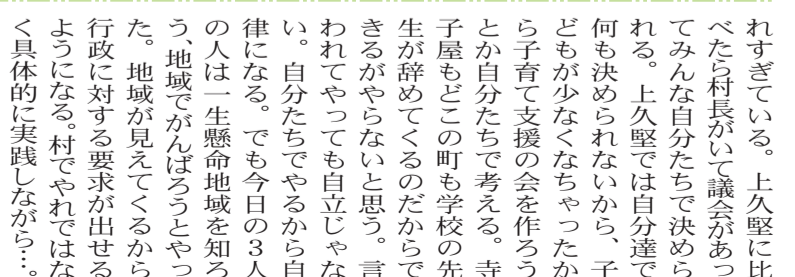
になったことがよかつたなと自分では思つています。私たちはこれを丘のまちフェスティバルで売ることができました。活動としては一年間で終わりましたが商品化できてほしいなと思つて

【司会】農村交流センターは地元の方面はあまり行かないと思つてみるごうです。

【東原さん】だから、困つたと思つたらしめたと思つたんですけど、喬木村の再発見があつたりとしまして面白く思います。

木なんかは村があつていろいろやってくれるからみんなやらのな。(会場から笑) 喬木はえらいえらいつつ言つけれど、村がみんなやってくれませんか。村が丁寧にやってくれるんなら飯田市のようになかなかできないことが多い。だから自分たちでやらなければ打開の道はないということに気がついた。なにもないけれどないからといって小さくなつていくよりも、自分たちでどんどんやってみようというのがあるんですよ、自分たちでいろいろな外にも村でいろいろやられている方もいらっしゃるんですけど、そこを公表する場がなかったり、何をしたいのか伝わらないというところがいっぱいあると思うので、みんなでそれこそ横系ということで繋がりを持ちながらやって行けばいいかなと今お話

を聞いて思いました。



「五平餅」「くりん豚」「心打たれ」が融合した『肉巻きおにぎり』



講師 ひさかた風土舎 長谷部三弘さん

【司会】子ども達が地元に戻ってくる、子どもを大事にするというのを考えていくところで、長谷部さんのお話でも面白いなと思つたのは子育て支援の会のことだと思って

【長谷部さん】実際に困らないとダメなんです。なぜそう思ったかというところ、小学校に小学生が二人しか入学しないという時期があつたんです。「複式学級になるよ」と言われて初めてこんな状況でいくと学校がなくなつちゃうと思つたんです。これは市に言ったってできないから、自分たちで何かしよう。できることをやろう。って声をかけたら、八十人くらいの手を上げて子育てを支援するお金を集め

たんです。鳥獣害防護対策の一五〇〇〇円の話けど、金を個人に配つて散らしたらそれで終わってしまうけれど、集まつたら何かできる

【司会】喬木村はめぐまれていていろいろお話が今ありました。村の中に住んでいるとあまり感じないこといっぱいあるんですけど、ここにいるお三方以外にも村でいろいろやられている方もいらっしゃるんですけど、そこを公表する場がなかったり、何をしたいのか伝わらないというところがいっぱいあると思うので、みんなでそれこそ横系ということで繋がりを持ちながらやって行けばいいかなと今話を聞いて思いました。



ふるさとづくりフォーラム 開会の様子

【司会】喬木村はめぐまれていていろいろお話が今ありました。村の中に住んでいるとあまり感じないこといっぱいあるんですけど、ここにいるお三方以外にも村でいろいろやられている方もいらっしゃるんですけど、そこを公表する場がなかったり、何をしたいのか伝わらないというところがいっぱいあると思うので、みんなでそれこそ横系ということで繋がりを持ちながらやって行けばいいかなと今話を聞いて思いました。

【長谷部さん】あれもね、色々な経験を積み重ねてきたので、そういうところがある中で、少しでもいいところがあると思つたので、それこそ横系というので、みんなでそれをやろう。って声をかけたら、八十人くらいの手を上げて子育てを支援するお金を集め

たんです。鳥獣害防護対策の一五〇〇〇円の話けど、金を個人に配つて散らしたらそれで終わってしまうけれど、集まつたら何かできる

**司会** 小林さんいかがです

**小林さん** コツは分かりませんが、思うのは私もいろいろ知りたいという興味があって、そういうことをしている方とどこに寄って行ってしまう。お客さんからお話をお聞きすると実際に足を運んだり、そうするとじゃあ一緒に何かやってみませんかということになったりします。

**司会** どちらからお話に出てきましたスピカさんの活動について伝えていただけ

**司会** 東原さん、喬木産の野菜とか名産品とかついでうのをきちんと伝えることはできますか？自分の中で喬木のもはこんなものがあるとかついでというのは

**東原さん** 高校生の中ではイチゴが有名で飯田に住んでる子とかはイチゴ狩りに来たりとか。くりん豚とかはぜんぜん有名でなかったり。広められたらいいなということでも今回使わせていただきました。

ばと思うんですけどいかがでしょうか。

**スピカ** 私たちはJA女性部の中の、二十代から三十代位の農業をやっている者や、関心がある者が集まったグループです。村の遊休農地を使って小麦を育てて小麦粉を作って、小林さんのようにサンドイッチに使っていただいたり、お店の方から依頼があつて販売したりとか。また、食育について、小学校や保育園の園児と一緒に畑で小麦を育て、粉にしてパンと

域の財産を発掘するついでうのことをこれからも続けていけば、喬木村もどんどんもつと変わってくるんじゃないかと思うんですけれども、そういう点ではどうでしょうか。

**長谷部さん** 上久堅でやっている高齢者への配食などは、喬木村でやってもいいんじゃないかと思う。上久堅ではシエフをやっていた人が定年で地元に戻ってきたり、その技術はもったいないということでも講習会をやったら評判が良くて、こういうのをみんなでやって高齢者のために配ってやればいいとなつて。女のあたちが自分たちでも何かやりたいが出来ないと言っていた所、これはいいということでも三の里工房を作り、高齢者への配食を始めた。喬木でも、今日はサンドイッチや五平餅を食べる日を決めて配ってやれば普及すると思う。そして、喬木特有の五平餅で、よそではまねできないよつていうものを作れば、私が「そういう発想が

かピザにして、自分たちで作って食べる事を教える活動もあつた志げ子などは、村の伝統野菜に認定されて、私もその生産者です。こちらから小林さんから美味しいからとサンドイッチに使いたいということでも使っていたらいいと思います。

**司会** 未だ塾は、これから色々考えてやつていってくださるという事ですが、この会場にいらつしやる方全員が自分の地域をどうしたいかか考えるきっかけになるフォーラムになればいいかなと思います。だんだんの終了時間も迫つてましたので、会場の中で感想もしくは一言言いたい方についていらつしやればどうぞ。

**参加者** 東原さんのお話をお聞きし感慨深いものがある。OIDE高校が統合する時に広域連合の方と学校

大切だ」と気がついたのは、人形劇カーニバルをやつた時に、役所の人たちは堅いのであるなことを考えてしまふんだけど、人形劇人たちは非常に自由な発想がいつぱいあつて、人形の関心が高まらないと相談したら、店のウインドウに人形を飾れば普及するということも出てくる。上久堅もどこからか

**司会** ありがとうございます。農家の人は野菜も余つてしまつていけるものも確かなので、今のアイデアをつく面白いなと思います。



第35回  
ふるさとづくりフォーラム  
どうしてくれるか どうするかだ！  
～未来を想う子どもに贈るふるさとを目前して～  
今年で35回を数えるふるさとづくりフォーラム

代表でどんな学校にするか理念について話し合ったと

しします。  
**長谷部さん** 上久堅では毎年正月の新春フォーラムをやつています。それぞれの地域の活動発表があるんですが、お金がない、人が集まらないという話はやめようということ、やつて楽しかったという発表にしました。どこでも苦しいんです、人がない、金がない、そういうことはあるんだけど、その後の、家で作つた自慢の物を持ち寄つて話し合いをする美味しいもの交流会の中から、三遠南信が通るから、リアが通るから、何かせんなんというところはみんな言うが、何をいふことが欠けている。道を作るとの話ばかりで何をするかを話し合つていないのでは

**参加者** それぞれの皆さんにお世話になり良い話を聞かせていただきありがとうございます。長谷部さんにはインターが完成し地域がどのように変わるかお話を

今年ふるさとづくりフォーラムについては九月から検討をして来ました。当初は昨年続いてICTにかかわるテーマで実施しようと考えていたのですが、実行委員会で検討を重ねるうちに、村の喫緊の課題である「人口減少」をテーマにしようということになりました。しかし、人口減少についてどのようなフォーラムにするかについては大変苦戦し、なかなか具体化していくことができませんでした。人口減少をテーマにフォーラムを行うと、人口減少に対する行政の施策についての批判や不満、こ

れ」という行政に対する要望に終始してしまうのではないかと、人口減少は深刻な問題だが、このテーマで地域の皆さんに集まつてもう一つは難しいのではないかなど、マイナスの意見もたくさんありました。しかし、実行委員の方や社会部の皆さんと人口減少について学んでいくうちに、一つの方向性が見えて来たように思います。それは、ふるさとづくりフォーラムのテーマである「どうしてくれるかではない、どうするかだ」ということでした。日本全体で人口が減少し、特に子どもと生産年齢の人口が減つてい

ムで講演いただき、その後のシンポジウムのパネリストとしてもご参加いただいた長谷部さんからは、地域住民自身が具体的な行動を起こすことが大事だということ、長谷部さんは様々な活動をやられてきているのですが、具体的な活動の種は自分の周りにいっぱいあるということ、そして、長谷部さんがやられてきた具体的な取り組みを紹介していただいたことで、住民自身が動き出すためのポイントとヒントをたくさん教えていただきました。また、シンポジウムのパネリストをしていただいた、森山さん、小林さん、東原さんには、どんな思いをもって地域活動に取り組んでいるか、取り組もうとしているかを語っていただきました。私の知らなかったことばかり

で、とても新鮮に感じ、また大いに刺激を受けました。パネリストの皆さんのように地域の先頭に立つて具体的な活動に取り組んでくれる方が一人でも増えたり、活動している方々が横になつたりしていくことで、地域が活性化し、さらに魅力ある地域が、喬木村が作られていくのではないかと思いました。

**司会** 森山さんの未来塾では三十代・四十代の若い方が政治に興味を持つという

お金を注ぎ込んで限られた人を喬木に集めてきたとしても、一時的に人口は増えるかもしれないが、根本的な解決にはならないということ。人口が減少するということをある意味受け入れ、地域がどう縮小していくか、縮小しても元気な活力ある地域であるためにはどうすればいいかを考えていく必要があるということでした。つまり、行政にあるいはだれかに何かをしてもらおうというのではなく、小さいことでもいいので、住民一人一人が何かを始めることが大事なのではないかということでした。

今年ふるさとづくりフォーラムを終えて  
公民館長 市瀬 徹

うことで活動され、小林さん・東原さんは食べるもので村を考え盛り上げていくという話をお聞きしました。

今日はこの三人の方、いろいろご無理を言つて来ていただきまして、皆さんので、皆さん

で終わりにしたいと思ひます。ありがとうございます。ありがとうございました。

で、とても新鮮に感じ、また大いに刺激を受けました。パネリストの皆さんのように地域の先頭に立つて具体的な活動に取り組んでくれる方が一人でも増えたり、活動している方々が横になつたりしていくことで、地域が活性化し、さらに魅力ある地域が、喬木村が作られていくのではないかと思いました。

私はふるさとづくりフォーラムを通して改めて大事だと思つたことがあります。シンポジウムのパネリストとして参加してくれた飯田OIDE長姫高校の東原さんのような喬木村の未来を担う若者や子どもたちが、喬木村のことを知り、喬木村を好きになり、喬木村を誇りに思えるような取り組みが最も大事だということです。東原さんは高校卒業



会場内は一体感が生まれたシンポジウムとなりました

後、地元に住み続けようと  
考えていますが、喬木村の  
若者や子どもたちが、森山  
さんや小林さんのように地  
域で活き活きと活動してい  
る大人の存在を知ったり、  
そういう方々とつながった  
りしていくことが、住み続  
けようと思う大事なきつ  
けになるのではないかと思  
います。そして、お金がいっ  
ぱい稼げるのか、交通が便  
利で、遊びや買い物に行き  
やすく楽しい生活が送れる  
などということとは違った、  
喬木村のよさや価値に気づ  
いてもらうことが大事だ  
と思いました。

私は村の公民館長という  
立場で中学二年生の職場体  
験学習のお手伝いをさせて  
もらっていますが、今年度  
は多くの喬木村の企業、特  
に若い経営者の皆さんに協  
力していただくことができ  
ました。これも中学生が喬  
木村で頑張っている企業や  
その経営者の方から様々な  
ことを学ぶ大事な体験になっ  
たのではないかと思います。

木村で頑張っている企業や  
その経営者の方から様々な  
ことを学ぶ大事な体験になっ  
たのではないかと思います。

木村で頑張っている企業や  
その経営者の方から様々な  
ことを学ぶ大事な体験になっ  
たのではないかと思います。

### 第四回公民館平和学習会 学び直し日本近代史 田中芳男・「虫捕御用」の明治維新

講師 青木 隆 幸先生

飯田市中心通りで生まれ  
た「田中芳男」をご存じで  
すか。残念ですが私は知り  
ませんでした。南信州新聞  
に五回田中芳男のことが連  
載され、この学習会をする  
に当たって切り抜き予習を  
しました。「博物館の父」と  
呼ばれリンゴの接ぎ木に成  
功した人、「知」の明治維新  
を生きた人と。しかし、  
青木先生のお話はそれを何  
十倍も膨らませた田中芳男  
の人となり熱く伝えるも  
のでした。

まず、育てられた土地柄  
と周りの人の環境。飯田に  
は最古の道標があり文化が  
流され手渡され種子が時か  
れる交流点だったこと。育  
てられた父親が毎日唱える  
「三字経」が生涯の精神と  
なったこと。それは、それ  
ぞれの命には役割があり価  
値があり居場所があるとい  
うことだったのです。その  
上、周囲に貝類・鉱物・キ  
ノコ類の標本を作る人、世  
界地図・地球と宇宙と世界  
まで目を向ける環境があっ  
たこと。これらのことが、  
博物館の作法である分類・  
名付け・役割・価値という  
基礎を作り上げていたので  
す。

二十五歳の時「蕃書調所」  
「博物学」いまの植物園に勝  
海舟と呼ばれ東京に出ます。  
その頃、フランスから万博  
への出品依頼がありその条  
件が日本に産する昆虫等の  
標本の持参だったのです。そ  
れを田中芳男の執念です。  
この夢を見つけた時のこと  
を話す先生の熱い思いに、  
まるで私自身が夢を見つけ  
たような高揚感でいっぱい  
でした。その後、伊勢に  
「神苑会農業館」日本最古の  
産業博物館を建設します。

その展示・名札は誰でも読  
める字で説明を添えておく  
誰にでも分かる博物館でし  
た。ここにも一般の人のこ  
とを考える田中芳男の心と  
なりがわかるような気がし  
ます。そして、この博物館  
がバリの夢を叶えたもので  
した。田中芳男がパリから  
持ち帰ったスプーンは食べ  
ることもあり、生きるこ  
とに命を見つめること今は  
植物も細胞・DNAとかが  
取り沙汰されているが、食  
物そのものを見つめるが大  
切ではないか。学問とは何  
かリンゴの接ぎ木に日本で  
最初に成功したのが田中芳  
男です。リンゴの美しさを味  
をかみしめてみましょう。  
と青木先生からの熱いメッ  
セージでした。何も無い所  
に、先駆者として標本をつ  
くり、翻訳をし、小さなこ  
とをコツコツ積み重ね、命  
を与え、パリで出会った夢  
を実現させる為の執念を持っ  
て生きた。こんな素晴らしい  
人が飯田で生まれていた  
ことに驚き・誇りに思いま  
す。

赤錆色に細く欠けゆく月見上ぐ  
餅搗くうさぎ何処に住むや  
雨降りてなほ寒さ増す古き家に  
友の来れば暖房上げる  
隣国を応援するかしらないかを  
国家が決めるとふ平昌五輪  
長兄は歌会始めを待たずして  
お題の「光」も知らず旅立つ  
プログラマー若宮さんは八十二歳  
ピンクのカーディガン好奇心溢れ  
ふるりの天神山の夕もみじ  
幼き頃の遊び場浮かぶ  
福は内常には出さぬが意気込みて  
八十六歳の春を叫びぬ  
股火鉢茶碗酒なめ夜更けまで  
年賀区分しし六十年前

原 健彦  
桐原 邦夫  
小椋 りよ  
知久 美子  
木下 寿子  
田中 妙子  
内山 和子  
小林 睦枝  
元島 康子  
市瀬 准子  
関島 春子  
大村 初見  
多田 昭  
福澤 亀人

### 公民館楽遊塾 第6講座 飯田交響楽団演奏会

二月十八日、まだまだ寒い日曜日の午後、公民館楽遊塾第六講座「飯田交響楽団演奏会」が福祉センター2Fで開催されました。当日は、コンサートマスターの矢高さんを中心に、喬木にお住まいの二名を含めた十一名の演奏者をお迎えしました。楽器の種類は、バイオリ



飯田交響楽団の演奏に聞き入る

ン・ヴィオラ・チェロの弦楽器で、まず、弦楽器四重奏、アイルランド民謡のロンドンデリーで演奏が始まりました。曲目はクラシックにとどまらず、ジャズ・ミュージシャン、グレン・ミラーの「ムーンライトセレナーデ」や美空ひばりの「川の流れるように」、オペラ、アルゼンチンタンゴの曲など、さまざまなジャンルの曲を演奏していただきました。途中、矢高さんによる楽器の紹介がありました。その中でも目を引く大きな楽器チェロは、「なかなかチェロのみで聞く機会はないがふくよかな音がする」とおっしゃった言葉が印象に残っています。又、チューニングの様子には解説をしながら行っていたという貴重な時間でした。

飯田交響楽団は、二十五年前、「飯田にオーケストラを！」と願った方々の努力により誕生したそうです。団員は、五十名を超え、地域の皆様に知って頂けるオーケストラを目指して頑張っておられます。そして今年、第二十五回定期演奏会では指揮者に下野竜也氏（西郷どんのテーマ曲指揮者）を迎えての記念演奏会となるそうです。生の演奏を身近で聞きたいという思いから始まった第六講座、当日は寒中大勢の方々にお越し頂きありがとうございました。そして楽団の皆様の素晴らしい演奏のおかげで、休日の午後、心地よい時間を過ごすことができました。感謝申し上げます。



講師 青木隆幸先生

### 編集後記

寒かった冬もいよいよさ  
り、少しづつ春らしくなっ  
て来た。春はいろいろとあり、  
別れもあれば新しい出発、又  
新しい出会いもあり、始まり  
の時。公民館活動も新しく始  
まる。公民館もいろいろの方  
面で見直しの時が来ている  
様に思う。行政が縦の糸とす  
ると、公民館は横の糸となる  
べく人と人をつなげる活動  
になるのが大事だと思っ  
う。うしろの思いも聞き  
たいと思っ